

平成28年第7回

荒川区教育委員会定例会

平成28年4月8日

於)特別会議室

荒川区教育委員会

平成28年荒川区教育委員会第7回定例会

1 日 時	平成28年4月8日	午後3時00分
2 場 所	特別会議室	
3 出席委員	委 員 長 委員長職務代理者 委 員 委 員 教 育 長	坂 田 一 郎 高 野 照 夫 小 池 寛 治 小 林 敦 子 高 梨 博 和
4 出席職員	教 育 部 長 教 育 総 務 課 長 教 育 施 設 課 長 学 務 課 長 指 導 室 長 生 涯 学 習 課 長 複 合 施 設 準 備 担 当 課 長 図 書 館 課 長 書 記 書 記 書 記 書 記	阿 部 忠 資 山 本 吉 毅 泉 谷 清 文 相 川 隆 史 小 山 勉 北 村 美 紀 子 菊 池 秀 幸 田 窪 和 美 椿 田 克 之 中 村 栄 吾 湯 田 道 徳 宮 島 弘 江

(1) 報告事項

- ア 平成28年度区立幼稚園等・小中学校の就学状況について
- イ 荒川区立小中学校の主幹及び主任の発令について
- ウ 公立学校教職員の処分について(報告)

(2) その他

委員長 ただいまから、荒川区教育委員会第7回定例会を開催いたします。

出席委員数の御報告を申し上げます。本日5名出席です。

会議録の署名委員は、高野委員及び小林委員にお願いいたします。

教育長、あいさつをお願いします。

教育長 新年度に入って初めての教育委員会となります。委員の先生方には卒業式、そしてまた今週行われました入学式での式辞につきましても、どうもありがとうございます。新年度で教育委員会事務局並びに地域文化スポーツ部の関連部課長も異動がございましたので、その御紹介もさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。

委員長 11月13日開催の第21回定例会の会議録につきましては、前回の定例会にて配付し、この間、確認をしていただきました。特に委員から意見がなければ、本日承認としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

委員長 それでは、承認といたします。

議事に先立ちまして、このたびの人事異動によって新たに事務局に配属された幹部職員の方々、また、地域文化スポーツ部の幹部職員の方にもお越しいただいておりますので、教育総務課長から順に自己紹介をお願いいたします。

教育総務課長 4月1日付で教育総務課長を拝命いたしました山本でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。

教育施設課長 4月1日付で教育施設課長を拝命しました泉谷でございます。よろしくをお願いいたします。

複合施設準備担当課長 4月から複合施設準備担当課長を拝命いたしました菊池でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。本日はごあいさつのみで失礼させていただきます。

委員長 ありがとうございます。

それでは、本日の議事日程に従いまして議事を進めます。本日は報告事項が3件です。報告事項ウの「公立学校教職員の処分について」の報告ですが、人事に関する案件ですので、会議を非公開として、初めに報告を受けたいと思いますが、異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

委員長 異議ないものと認めます。本件については会議を非公開といたしましたので、一度委員会を閉めさせていただきます。本件の所管以外の方は退出をお願いします。

〔事務局職員退室〕

〔報告事項ウ非公開により審議終了後、事務局職員入室〕

委員長 続いて、報告事項アになりますが、「平成28年度区立幼稚園等・小中学校の就学状況について」御説明をお願いいたします。

学務課長 それでは報告させていただきます。「平成28年度区立幼稚園等・小中学校の就学状況について」でございます。

まず、1番、幼稚園及び汐入こども園でございます。こちらにつきましては、今年度全体の状況としまして、幼稚園児数585人、それから汐入こども園児数177人という状況でございます。

それから、3歳児につきましては、幼稚園児数が179人、それから汐入こども園が34人となっております。なお、汐入こども園(3歳児)につきましては、定員が10人なのですが、そこに19人の応募がありましたので、そこだけ抽選を実施しております。

続きまして、2番、小学校でございます。小学校につきましては、1・2年生が1学級の上限35人、それから3年生以上が40人ということで学級編制を行っております。

全体の状況です。児童数につきましては、前年度比110人の増ということで8,533人、学級数についても6学級増となっております。それから、新1年生につきましては、数としましては1,457人。ここは前の年と比べまして38人減っておりますけれども、たまたま今年少し谷になっているということで、全体として増えているという状況は変わっておりません。卒業した6年生の数と1年生の数を比べて、1年生の数が多かったものですから、全体の数は先ほど申し上げましたとおり少し増えているという状況です。

それから、区外への転出あるいは区外からの転入につきましては、転出につきましては64名という状況でございます。それから転入は11人となっております。

それから、学校の抽選の状況でございますけれども、峡田小学校、第四峡田小学校、尾久小学校、ひぐらし小学校の4校で抽選を実施しております。このうち、第四峡田、それから尾久、ひぐらしにつきましては去年も同様に抽選を行った学校でございます。

抽選の結果につきましては、参考資料の(2)に、「学校選択制度における抽選の実施状況」それぞれ4校の状況が載っておりますので御参照いただければと思います。尾久小とひぐらし小につきましては、今回につきましては、繰上、当選ともにゼロということで、区域内の生徒が全部入っているという状況になってございます。

では、続きまして3番の中学校の状況でございます。中学校につきましては、1年生が35人、2年生・3年生につきましては40人を上限に学級編制を行っております。全体の生徒数は3,292人、学級数は110学級となっております。1年生につきましては、1,067人、学級数35学級ということで、区外からの転出あるいは転入につきましては、転

出が26人、それから転入が16人という状況でございます。

それから、一番下ですけれども、抽選でございます。これも先ほどと同様に資料の一番最後に、中学校の部分で「学校選択制度における抽選の実施状況」がついておりますので、御覧いただければと思いますが、尾久八幡中学校、それから諏訪台中学校の2校で抽選を行っております。

尾久八幡中学校につきましては、3人当選して22人が繰り上がっております。それから諏訪台中につきましては、当選はなかったのですが、あとから繰り上げということで6人が繰り上がっております。

今後の予定でございますけれども、来週4月13日に文教・子育て支援委員会で議会に報告する予定となっております。

雑駁でございますが、御説明は以上でございます。

委員長 諏訪台というのは、希望者が域内で189人いたわけですよ。希望があったけれども通学しなかった人が結構たくさんいたという理解ですね。

学務課長 そうです。諏訪台につきましては、区内の中でも私学へ進学する率が少し高めの地域でございます。通学区域内では御指摘のとおり人数が多いのですけれども、そちらに抜けていった数が大分あったということで、今年は下がっているという状況です。これは例年そういった流れになっております。

小林委員 諏訪台中学校の卒業式に行ったときに校長先生とお話をしましたら、もしかしたら3学級になるということだったのですけれども、結局、4学級になったということですね。非常に心配されておられましたので。

教育長 少なくなってしまうのではないかということですね。

小林委員 はい。学級数が3学級になると、やはり教員を出さないといけないと心配されておられました。4学級ということですので、よかったです。

高野委員 入学式に行ってきました。入学生の誓いの言葉、態度もすばらしく立派な子でした。そして、120人がきちんとしていました。ひぐらしの里の地域の人たちが、子どもたちを大事にする環境づくりがなされているようです。

小林委員 そうですか。120ですか。121ではなくて。

高野委員 120です。

小林委員 質問ですけれども、九中の夜間が、1年、2年と1名ずつで3年生が22名で、九中の夜間は減少傾向にあるということなのですか。

学務課長 夜間中につきましては、ここの数字が年の途中で変わるということで、4月1日の時点ではこういう状況になっておりますけれども、年度の途中で入ってくる生徒が多いこと

と、今、現在、4月の時点ではお試し入学の期間で、まだ正式に入学していない生徒たちがいますので、恐らくプラス15人ぐらいは実態としては出てくるだろうと思います。

小林委員 そうですか。わかりました。ありがとうございます。

委員長 九中の夜間は、今、外国の方が多いので、9月とかが多いのではなかったかな。

小林委員 なるほど。そうですか。

委員長 校長先生方何人かに伺うと、先ほどのようにぎりぎりのケースが結構あちこちにあっ
て、教員を出す方もあるでしょうし、入れる方もあります。この間、ある小学校では結局
1クラス増えたので、専門の先生を組みかえて担任に回さざるをえなかったと聞きます。
4月最初から着任されない場合、担任がいない状態というのはできないので。これから教員
の人材マネジメントとしては、荒川区のような環境下で、何かいい方策がないものかと思
います。特に、今、小学校の方は、中学校もそのうちそうなると思いますけれども、やや増加
傾向が続いていますので、40人に近いクラスがある学校では、常にあり得ますよね。

指導室長 第九峡田小学校でございますが、4月7日まで明確になりませんでしたので、来週
早々1名入るように進めているところでございます。都教委の方からも慎重に入れるよう
という指示が出ておりまして、浮いてしまう教員が絶対いないような対応をしるという指示
が出ております。学校に対しては大変申しわけないのでございますが、少しそういう配置に
なることもございまして、教育委員会としても1日でも早く入れられるように努力したいと
思います。九峡の先生も、きょうの退職校長感謝状贈呈式が終わったらすぐに面接をしまし
て、採用を決める段取りをしているところでございます。

委員長 その辺は都教委の方針だけれども、本当は少しバッファがあるといいのですが。子
どもたちから見ると担任がいないというわけにはいかないのですが、少しバッファがないとマネジ
メントが難しいところではありますよね。

教育長 バッファにするのが、4月7日時点での児童・生徒数をもとにクラス数が決まるので、
せめて4月1日とかにしてくれると助かります。入学式が終わってからクラス数を決定して
も対応が厳しいですよ。

委員長 子どもの方から、学校の課程から見ても、初日に担任がいないというのはちょっとあ
り得ないことになってしまうので。

教育長 1クラスになるか2クラスになるかも、ぎりぎりまでわからないという事態も起きて
います。

委員長 あと、小学校の方で第三瑞光が急激に増加していますね。

学務課長 第三瑞光は生徒数増ということもありますので、昨年度に募集の時点から1学級増
でやったところ、今年については4学級ということ。

委員長 プレハブができたのですか。

教育部長 今年度つくる予定です。28年度はまだ大丈夫なのですが、29年度は普通教室が不足する見込みなので、何とか今年度中にと。

委員長 教室はできても運動場はできないので、運動場が狭いところが増えると、またこれなかなか運営が難しくなるところがありますね。

教育長 一方で、通学区域を変更するという案も検討したのですが、瑞光は瑞光でもうこれ以上生徒を増やせません。教室を建てるところもないし、これ以上の受け入れは瑞光小も厳しいのですよね。

委員長 中学校は、私は第四中に行ったのですが、第四中も近年急速に増加して、23年のころは全体で90人弱でしたが、この5年で3倍になっているという事情があります。学生数の増加自体はうれしいことですが、教員の配置は注意を要することになりますね。

教育長 やっぱり中学校は、学年に複数クラスがないと教育上好ましくないと考えています。

高野委員 特別支援は特段大きな問題ありませんでしたか。

学務課長 特別支援学級につきましては、資料の中学生のところの中段にありますけれども、ここは丁寧に就学相談もした上で、保護者の方と相談の上で決まっております。今年度、四中で新たに特別支援学級を増設いたしました。そこを選んで入っている子もいるという状況になっております。

高野委員 大切によろしくお願いします。

諏訪台が121と書いてあるのですね、この表には。

小林委員 120の学級数は。

高野委員 4学級、A B C Dだから。

教育長 1年生の1クラスは35人です。

小林委員 そうですか。4学級でよかったです。

教育長 ただ、小林委員が、今、御指摘されたように1年生のうち4クラスでも、2年生は今度40人学級になるので、それでまたクラスが減ってしまうということも、先生たちは懸念しています。

小林委員 そうですね。

委員長 例えば4年生で78人で、4月7日までにあと3人転入してきたらクラスが1つ増えるわけですからね。

教育長 もう4月7日以降は増えないです。ただ、翌年度はクラスを増やさないといけないということになります。

指導室長 6日までに増えた場合には学級増になります。前日でも学級増に対応するようにと。

学務課長 補足ですけれども、先ほど高野委員から諏訪台120人というお話がありました。

この資料では121人になっていますが、4月1日の時点では確かに120人だったのですけれども、最後に1人増えました。

委員長 よろしゅうございますか。

それでは、続いて「荒川区立小中学校の主幹及び主任の発令について」説明をお願いいたします。

指導室長 このたび28年度の小学校、中学校の主幹教諭、主任教諭を発令させていただきたいと思っております、報告させていただきます。

網かけの部分が主幹教諭でございます、小学校では教務主任、生活指導主任、保健主任、研究主任が必置の主任でございます。そのほかに学年主任を載せてございます。中学校では教務主任、生活指導主任、進路指導主任、保健主任が必置の主任でございます、そのほかに学年主任を載せてございます。

以上のような形でございます。よろしくお願い申し上げます。

委員長 ただいまの説明について質問などございますでしょうか。

主任の方は、何か手当とかはあるのですか。

指導室長 若干ですけれどもございます。

教育長 主任よりもまた主幹の方が、手当が増えるという形ですね。

指導室長 現在、主任はいいのでございますが、主幹のなり手が少なく、主幹にならないと副校長になれませんので、副校長の人員が足りないということもございまして、荒川区としてもぜひたくさんの主幹、そして管理職を受けられる人材を確保しようと躍起になっているところでございます。

委員長 主任から主幹教諭になりますと、増える負担というのはどういうものがあるのでしょうか。

指導室長 一番大きいのは副校長の補佐という仕事になっております。副校長になるOJTということで、主任にはない部分でございます。

小林委員 主幹教諭になると仕事の量が大変増えますね。

指導室長 そうでございますね。

高野委員 副校長も大変ですね。

教育長 そうですね。でも、なってもらわないといけないのですけれどもね。

委員長 ほかにございますでしょうか。

小池委員 何か主幹教諭になる人が少ないというか、今後のことを考えると少ないというお話でしたけれども、インセンティブとしては副校長になり得る資格があるということ。ほかに

何かないのですかね。できるだけエンカレッジするような方法というのは。

指導室長 やはり多忙になるということ、それから責任が重くなるということで敬遠している
というようなことは伺っております。ただ、反面、責任が重くなるということは学校経営に
かかわれるということで、そこに魅力を感じていただくと、なろうという人材も増えるのか
なと思うのでございます。

教育長 余談ですけれども、区の方も、荒川区だけではないのですけれども、なかなか係長と
か課長にならない。先ほど小池委員がおっしゃったインセンティブというのが、いまいち職
員に見えてこないという問題があります。

小林委員 そうですね。恐らく副校長になるというのが動機づけになっていないということ
ですね。

高野委員 副校長制度は何年前からできたのですか。比較的、新しいでしょう。

教育長 副校長は教頭ですから、それはずっと前からあります。

高野委員 そうでしたか。

教育長 おっしゃるように副校長とか校長になりたいというよりも、そんなに人生かけてまで
苦労したくないという感じになってしまうのでしょうか。

委員長 学校によっては、あともう一つ、主幹教諭が1人しかいない学校もあれば、でも、も
っとも主任になっている人なのですね。主任になっている人の中でだから、これ以外にもい
るわけですね。

指導室長 主幹が基本的には主任になるということなので、ここに載っているのがすべてで
ございます。小学校の場合には、原則各学校2名主幹を配置するということになってございま
す。

委員長 1人の学校から、多いところは5人まで。かなりばらつきがあるのですね。

指導室長 例えば瑞光小学校で言いますと、今年度主幹の教員が1名副校長に昇任しましたの
で、今年度減っております。そういうところにはまた次年度配置できるようにということを
考えてございます。原則2名なのでございますが、3名、4名いる学校に関しましては、そ
こで3年以内に管理職試験を受けるとか、そのような約束をしている場合には主幹を多く置
いていいとか、今後、管理職に昇任する予定の者は人数から外すとか、そういうことは規定
がございまして、原則2名というところで、あとはきちんとのっとしてやってございます。
中学校の方は原則3名ということで、1名多く主幹を入れられるということではございますが、
そろっていない学校もございまして、東京都全体でいいますと主幹の配置率は60%ぐら
いだとおっしゃってございます。

小林委員 そうですか。

小池委員 60%は何の60%ですか。

指導室長 必要人数の60%しか主幹がないということでございます。

小池委員 インセンティブの一つとしては、仕事の量が多くなるのをどうやって減らすかというのがあるわけですね。私は、昨年度、文部科学省の講習会に出席しましたが、要するに学校を職務として捉え、チームとして考えて、主幹に仕事がしわ寄せにならないように、専門の人を含め、もう少し分担する仕組みを作るべきだという提案があったのですけれども、これは現実的なのか、極めて役人チックなものか、私は判断できなかったのです。

指導室長 副校長2名体制ということを東京都も考えているようで、今年度、東京都でモデル校とした小学校が2校あるのでございますが、その1校が峡田小学校になります。峡田小学校は副校長が2名体制で、副校長の職務の軽減を計測していくという学校になってございます。そこで副校長の仕事が軽減になってきますと、主幹の仕事も軽減につながることも考えられます。

委員長 よろしいでしょうか。

それでは、その他の報告事項ですが、4月から6月までの教育委員会関係主要行事については、配付資料のとおりですが、これについて何かございますでしょうか。

生涯学習課長 御手元のコミュニカレッジのガイドブックを御覧ください。4月16日に第6期生の入学式がとり行われまして、6期生の募集に当たってガイドブックを御覧になり御入学いただきたいというPRも含めて、修了生もこのコミカレのガイドブックをもとにお勧めするなど、入学を促進しているところでございます。ぜひ御覧いただいて、コミカレの修了生がどんな地域で活動しているか、どんなことを地域で展開しているかを御覧いただきたいと思います。

教育長 入学式と式典はいつでしたか。

生涯学習課長 4月16日の土曜日です。この日、実行委員会による5周年記念パーティーもサンパール荒川で行いますが、小ホールで入学式、5階の第5集会室で記念パーティーということで実施する予定でございます。

以上でございます。

小池委員 コミカレは同窓会としてのつながりが結構あるようですね。同窓会会長の脇田さんは同じアパートだけれども。

生涯学習課長 先日、日暮里サニーホールでのあらかわを語る懇談会にも、小池委員もおいでいただいて、やはりコミカレの修了生が中心になってイベントを開催するというので、たくさんの方がお見えになっていました。

小林委員 このパンフレットは大変すばらしいですね。

生涯学習課長 ありがとうございます。これでコミカレの入学生をどんどんふやしていきたい
と思いますし、コミカレをもっと知っていただく冊子になるといいと思っております。

小林委員 こういった冊子は、インターネットで検索できますか。

生涯学習課長 これをインターネット上に載せて見られるような形にしていきたいと思います。

小林委員 そうですね。大変すばらしいので、PDF化して見られるようにするといいと思
います。

委員長 予定しておりました事項は以上ですが、ほかに連絡事項等がありますでしょうか。

教育総務課長 特にございません。

委員長 ないようですので、以上をもちまして教育委員会第7回定例会を閉会いたします。

了